

井村 進

図書館と防災準備

二〇一一年三月一日に発生した東北地方太平洋沖地震とその津波の被害を受けられた皆様に心からお見舞い申し上げます、亡くなられた皆様のご冥福をお祈り致します。

図書館が受ける災害としてまず思い出されるのがこの東北地方太平洋沖地震であり、多数の図書館が被災し、多くの閲覧者、職員が犠牲になり、貴重な資料を失った。二〇〇四年のスマトラ沖地震では、わが国からも地震・津波で被害を受けた文書遺産の復興支援が行われた。また、バンコクの大洪水では、タマサート大学図書館が大きな被害を受けた。遙か上流から洪水が襲ってくるということが明らかな状況で、被害を避けられないというのはいかばかりの気持ちであつたらうか。

3・11の地震では、アジ研図書館も書架の転倒は免れたものの、少なからぬ被害を受けた。たまたま、地震の当日は国会図書館関西館に出張していて午後三時前、長い周期の地震の揺れを感じた。東北、関東で地震があつたということで、アジ研図書館に連絡を入れるもの全くと繋がらず、五時過ぎようやく連絡がつき閲覧者と職員の安全を確認することができた。

三月一三日の日曜日に図書館の被害を確認した。約六〇万冊の蔵書の目測六〇％程度が落下し、どう片付けるか途方に暮れる思いがしたが、図書館職員の努力と多くの研究所職員の応援によって、五月の連休明けに全面復旧することができた。

千葉市では、千葉市中央図書館を中心に公共図書館や大学図書館、アジ研図書館のような専

門図書館など館種を超えた図書館二六館で「千葉市図書館情報ネットワーク協議会」が組織されており、この協議会で3・11の地震による被害調査が行われた。図書的大量落下の被害が発生したのは、放送大学と神田外語大学、アジ研の三館だつた。他方すべての館で人的被害が発生しなかつたのは幸いだった。

放送大学、神田外語大学、アジ研はいずれも埋め立て地に建てられた図書館であり、埋め立て地という立地が地震の揺れに弱いことが改めて明らかになった。アジ研は地盤強化を行い、耐震対策は現在の基準では満たしているとはいえ、免震構造ではなく、地震時の図書の落下は避けられない。震災後、閲覧者、職員の人的被害を最小限にとどめるために、緊急地震速報を自動的に放送する設備を導入したが、実践的な防災マニュアルの整備をはじめ、書架の連結の強化、図書の配架時の押さえ、棚板の滑り止めなど、緒についたものの、更に対策を進めることが必要である。また、落下にともなつて破損した資料の修復にも費用がかかる。滑りにくい塗料を使った棚板を書架の基本仕様とすることをメーカーには提案したい。ただ、これらの対策に要する費用は、単価は安くても圧倒的に量が必要となり、結果として非常に高額となるのが図書館設備や備品装備のネックとなる。

地震や洪水の被害に遭う前に、予防対策を講じることが結果的には経費も安くあがり、それは人の安全を守り、蔵書の保全を図る基本である点を肝に銘じて、災害対策を進めることが必要である。

いむら すすむ

研究支援部出版企画編集課上席参事。東北太平洋沖地震が発生した2011年3月当時、アジ研図書館長。